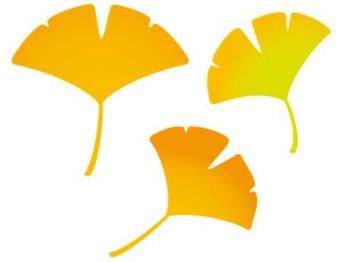


歴史に寄り添う
まちづくり

伝建群だより

山々から街並みに紅葉が色づく季節になってきました。
それとともに、朝晩の冷えが身に染みる季節となり、少しづつ寒くなってきました。新型コロナウイルス感染予防も含めて体調管理には十分お気をつけください。

また、空気が乾燥してきましたので、くれぐれも火の元にはご注意ください。



住宅用火災警報器の連動点検について

点検期間：令和2年11月19日(木)～12月20日(日)の予定

10月の伝建群だよりでもお知らせしたとおり、地区に設置してある無線式連動火災警報器が正常に通信をしているかの点検を行います。



点検は、設置した火災警報器のボタンを皆さまで押してもらい音声を鳴らして行います。

町務員さんと市役所の職員がご自宅にお伺いしますので、よろしくお願いいたします。

詳細な日時について、調整が出来次第、チラシ等でお知らせします。

点検時間：アンケートも含めて1軒につき、15～30分になります。

不在の場合：実施する日のご都合が悪い場合には、後日市役所職員がお伺いします。

その他：訪問する際には、新型コロナウイルスの予防対策としてマスク着用等の対策を行います。

【開催日時決定！】保存修理事業見学会のお知らせ

見学会について、詳細が決まりましたので、下記のとおりお知らせします。

開催日時：令和2年12月6日(日) 午前9時～12時(終了予定)

集合場所：有鄰館

見学内容：過去に保存修理した建物や、今年度保存修理している建物(外観のみ)
(近江屋喜兵衛・com+position・旧郵便局・カイバテラス・長屋などを予定)

定員：先着 20名 (事前申し込みが必要です)

(保存修理事業を検討している方、特定物件を所有している方はぜひご参加ください。)

申込先：下記、日本遺産活用室までお気軽にご連絡ください。

令和2年11月30日(月)締め切り電話で事前に申込みください。

住所・氏名・連絡先をお電話でお伝えください。

0277-46-1111(代) 内線346・347

その他：見学会当日の新型コロナウイルス感染予防対策として、

参加者の皆様には、マスク着用及び手指の消毒をお願いいたします。



織都桐生の日本遺産を見つめて②

織物参考館 “紫”^{ゆかり}



織物参考館“紫”は、森秀織物工場の一部を利用して昭和56年に開館しました。

森秀織物は、大正13年頃に本格的な操業を始めたとされ、高級織物であるお召の技術を今に伝えています。

桐生の織物技術と歴史を学び、染色や手織りを体験できる施設として、全国各地から見学者が訪れています。

敷地内には、染色体験ができる釜場のほか、ノコギリ屋根の工場、旧撚糸場、旧土蔵、旧寄宿舍、森島家住宅の主屋等、15の施設が平成18年に国の登録有形文化財となっています。

伝健群だよりの編集担当も、日本遺産を周知する中で、体験をしなければ皆さまにご説明が出来ない！というわけで、実際に染色(藍染)体験をしてきました。大きめの真っ白なハンカチに輪ゴムや割りばし等を使い、試行錯誤をしながら、完成させました。皆さまも、もし良かったら、足を運んでみてください。



しらたきじんじや 白瀧神社

織都桐生の日本遺産を見つめて③

桐生市川内町に位置し、京都から織物技術を伝えたといわれる「白瀧姫」を祀る神社です。

境内には、かつて機音が聞こえたと言われる「降臨石」や樹齢300年以上と伝えられる市指定天然記念物「白瀧神社のケヤキ」等があります。



降臨石



白瀧姫の伝説: その昔、山田郡仁田山郷(現在の川内町)から朝廷に仕えることになった男が、天皇の許しを得て、白瀧姫を妻として連れ帰り、桐生に織物が広まったという伝説が残されています。白瀧姫は機神様として祀られ、絹産業に携わる人々に信仰されています。

編集後記: 10月にカイバテラスで、5週連続週替わりカレー(毎週木曜日)を食べると、「カレー王」の称号がもらえる「カレー王チャレンジ」のイベントが行われていました。次回、同じような催しがあったら、挑戦してみたいと思います。

～感性育み 未来織りなす
絆なまち 桐生～

編集・発行
桐生市産業経済部観光交流課日本遺産活用室
電話 0277-46-1111(内線 346、347)
令和2年11月1日発行 No.60